

2020年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493700197	事業の開始年月日	平成24年2月1日	
		指定年月日	平成24年2月1日	
法人名	株式会社 日本アメリティライフ協会			
事業所名	グループホーム花物語いちがお			
所在地	(〒225-0014) 横浜市青葉区荏田西1-12-11			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	26	名
		ユニット数	3	ユニット
自己評価作成日	令和2年12月16日	評価結果 市町村受理日	令和3年4月12日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/">http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/</a>
----------	---

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当事業所は東急田園都市線の市ヶ尾駅より徒歩約10分程度の立地と、閑静な住宅地にあり、施設にありがちな過疎地的なイメージではなく比較的明るく清潔な立地条件に恵まれた施設である。</p> <p>認知症を患う利用者の気持ちに寄り添い、共に生活をおくる上で、その人らしさを第一に考えてご本人の思いを受け止めて穏やかに、安心して安全な暮らしができる様、支援する。また地域との交流や社会生活において共存ができる様、自治会・民生委員の方々と積極的に交流を深め、施設間の隔たりを無くす様、配慮している。</p>
--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和2年12月16日	評価機関 評価決定日	令和3年4月5日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、東急田園都市線「市が尾」駅西口から10分ほど坂を上った、マンションや戸建て住宅が並ぶ閑静な住宅街にあります。建物はRC造り4階建てで、平成30年度に、2ユニットから、2階から4階までの3ユニットとなったグループホームです。</p> <p>&lt;優れている点&gt; 職員は、事業所の理念「気配り・目配り・心配り」を踏まえ、利用者第一の視点で「安心・安全・笑顔」を目指して支援しています。施設長は「いかに気付けるか」を職員に徹底し、理念に基づくケアの実践に努めています。コロナ禍で、今年度は密になる地域活動は全て中止していますが、例年は、町内会の回覧板の他、地域の茶話会や法人会の食事に参加して、地域の情報を得ています。町内会の餅つき大会、夏祭りや、地域包括支援センターのフラダンスや詩吟などの発表会に利用者職員が参加しています。地域の避難訓練には職員が参加しています。事業所のクリスマス会では、ボランティアや地域住民と交流しています。また、読み聞かせ、傾聴のボランティアを受け入れるなど、多様な機会を設けて地域交流を進めています。</p> <p>&lt;工夫点&gt; 協力内科医の訪問診療時に、内科の看護師、職員の看護師に加え、薬剤師も同席しています。診察終了後、4者で打ち合わせして効率的に情報共有しています。打ち合わせ結果は、職員の看護師が看護記録にまとめて職員間で共有しています。</p>
---

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム花物語いちがお
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念は各事業所にて決めている。また玄関、事務所、各フロアーに掲示して、職員は理念の基、常に「気配り・目配り・心配りをモットーに、入居者を第一に考え「安心・安全・笑顔」を目指して支援している。	事業所の理念「気配り・目配り・心配り」は、玄関や各フロアなどに掲示して周知しています。施設長は「いかに気付けるか」を意識することを重視しています。業務日誌には「通常と違う様子」を記載する欄があり、職員は日常業務で「いかに気付けるか」を実践しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	荏田西町内会に加入し、年間行事（もちつき大会やお祭り）等に参加。 ※今年に入り新型コロナウイルスの影響により中断。	例年は、町内会の回覧板の他、地域の茶話会や法人会の食事会に参加して、地域の情報を得ています。地域の餅つき大会、夏祭りなどに利用者と職員が参加しています。事業所のクリスマス会では、ボランティアや地域住民と交流しています。今年度は、新型コロナ禍で全て中止しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	自治会を通し、近隣の住民の方々との交流、協力をしている。 ※今年に入り新型コロナウイルスの影響により中断。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1度実施しており。施設での利用者のご様子や事故報告、また参加者のご意見などを聞きサービス向上に努めている。 ※今年に入り新型コロナウイルスの影響により2月以降中断（別の形式を検討中）	運営推進会議は、2ヶ月毎に町内会々長、民生委員、地域包括支援センター職員、利用者と家族をメンバーとして開催しています。参加者から「歯ブラシなどの消耗品の補充方法を利用者別に明確にして欲しい」との要望があり、家族に確認書を送付し回答を貰い明確にしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進委員会を通じて、主に地域包括の方々との連絡を密にとり、協力関係を築いている。 ※今年に入り新型コロナウイルスの影響により2月以降中断（別の形式を検討中）	区高齢・障害課に介護認定の申請代行などの手続きで訪問しています。区生活支援課とは、電話で生活保護受給者の状況に関する情報共有や相談をしています。今年度は、マスク、消毒液、手袋などの在庫管理などについて、市や県などと密に連絡を取り合っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の研修・確認を定例会時に行い、身体拘束の有無を改めて確認をし、理解、実行に取り組んでいる。また自己点検シートを活用をし虐待防止に努めている。	身体的拘束適正化の指針を定め、身体拘束適正化委員会を開催しています。指針やマニュアルを基に研修を開催して、身体拘束をしないケアを実践しています。玄関やフロアの出入り口は、安全対策上施錠しています。外出願望の強い利用者には、職員が付添い対応しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的な研修・確認を通し各自が虐待に繋がる事はないか、その都度確認をしている。また職員がいつでも閲覧できる様、休憩室に虐待防止マニュアルを設置している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	定期的な研修や介護支援専門員との意見交換等の場を設ける事で、利用者が後見人制度を必要とする時期等の勉強の場としている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に順を追って分かりやすく説明する。その都度説明内容に疑問や質問等の有無を確認し、納得が頂ける様、説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や面会時に、ご要望や個々の意見を聞き取り、その都度または、定例会等での話し合いにより、利用者のご家族にはご理解の頂ける様返答をしている。	家族の意見・要望は、面会（現在中止中）や電話連絡の他、運営推進会議や意見箱でも把握できるようにしています。家族から「面会できないので、声だけでも聞きたい」との要望があり、会社の携帯電話を利用して話してもらう支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	現在定期的なミーティング等を実施していないが、必要に応じて意見交換の場（申し送り等）を設け適宜実施。ユニット毎に、職員の要望や意見交換を行い、業務に反映させている。	職員の意見・提案は、日々の会話、カンファレンスなどの意見交換の場や、適宜個人面談を実施して話を聞き、運営に反映しています。新型コロナ禍で、利用者と職員のみで開催せざるを得なくなったクリスマス会を盛り上げる企画が、職員から多数寄せられ、取り入れています。	現在、新型コロナ禍などの事情で定期的な打ち合わせは実施していませんが、周知やコミュニケーションとして、定期的な打ち合わせ実施の工夫が期待されます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	資格に繋がる研修は事前に申請する奨学金制度にて取得出来るようになっている。また職員の希望や働きやすい職場環境を整えるため、職員の意見聞き取り職場へ反映させている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	入社時は同時間帯の勤務者と直接職場研修をする事（OJT）で業務を身に就けている。また他施設での介護現場（ヘルプ対応等）を研修に取り入れ、職員のスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	定期または不定期に全体・エリア会議を設け、本社通達をはじめ施設間の様々な情報を共有することで、意見交換の場としている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前にご家族及びご本人から既往歴や身体状況のアセスメントを取り、それに合わせてケアプランを作成する。情報やプランは職員間で共有、利用者が安心して生活出来る様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族には施設での生活に関する情報をお伝えし、どんな不安や要望があるのかをお聞きし、入居前にご本人やご家族にとって、何が一番必要なのかを、理解して頂き関係を築いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人やご家族が何を望んでいるのかを見極めて、要望に合わせた支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は利用者の事を最優先に考え、その方にどう介護・支援の事が最善かを考慮しながら、その人らしく持っている能力を活かせる様、支援する。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の日々の変化を家族に説明しながら情報を共有し、利用者・ご家族の要望を踏まえて支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	施設は常時面会をオープンにし、ご家族との外出・外泊等も積極的に行って頂いている。 ※現味新型コロナウイルスの影響で、面会制限あり。	入居時のアセスメントや家族からの情報で利用者の生活歴を把握しています。利用者に馴染みの新聞の購読や、家族が持参する馴染みのヨーグルト、梅干しなどの取り次を行っています。趣味の塗り絵や将棋を継続している利用者もいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	体操やレクリエーション等を通じ、利用者間には隔たりなく接して頂き、できる限り孤立しない様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用者の状況が変化し、サービスが終了した場合でも、ご家族から相談や問い合わせがあった場合はその都度、対応をしている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の個々の思いや希望を把握し、出来る限りご要望にお応えしている。解決が困難な場合はキーパーソンやご家族に相談して解決に努めている。	入居前に病院や自宅を訪問して生活歴などを確認しています。職員は、入浴中や居室の中など一対一での会話を大切にして、思いや意向の把握に努めています。意思疎通が困難な利用者には、家族からの情報や利用者の行動、表情から推測しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の個人記録や個人経歴等のを職員間で共有し、入居後のサービス向上に反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	施設での利用者の生活及び身体情報は職員間で常に共有し。必要であれば、カンファレンスや申し送りノートを活用し、漏れの無い様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者の日々の状態を提携医療機関の主治医、看護師、ケアマネージャー、介護職員等の様々な意見を反映しケアプラン作成している。	介護計画は、6ヶ月毎のアセスメントと3ヶ月毎のモニタリングを基にカンファレンスを行い、利用者・家族の要望と医療関係者の意見を反映して、作成しています。計画は、6ヶ月毎に見直し、状況変化時にはその都度見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録は業務日誌や申し送りノートに記録して職員間で情報を共有。利用者の状況や状態の変化に合わせてその都度介護計画を見直し、ケアプランに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	可能な限り利用者個々のニーズにあわせた対応と、緊急時の受診対応等には必要に応じて支援、サービスを行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の行事には、積極的に参加して頂き、交流を深める事でその人らしい生活・暮らしができる様に支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回、提携医療機関の往診を実施している。また利用者の体調不良時にもその都度、オンコールによる医師・看護師の指示をうけ、連携、対応をしている。	提携医の往診は月2回です。各人の身体状況を事前に知らせ、診察結果を聞き取り報告書にまとめています。事業所の看護職員、薬剤師も同席しています。緊急時の連絡網があります。専門医には原則家族が対応です。新型コロナ禍で、病院への個別受診では、ビデオに本人の様子を撮影し、診断を依頼した事例もあります。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員は週2回勤務し、利用者の健康管理及び状態を把握し、主治医と連携して適切な処置・対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づ	利用者の入院時には、病院及びご家族との連携を密に行い、症状・情報の把握に努める。またその情報を基に今後の介護・ケアに生かせる様、病院関係者との情報交換も行っている。 (情報提供書等)		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に関しては、契約時にご家族に説明し同意書にサインを頂く。また利用者が重篤になりそうな場合は早い段階で主治医に相談し専門医の治療をご家族に促し治療先の病院と連携を取りながら今後の治療等に対応している。	入居時に「看取りに関する指針」を家族本人に説明し、経過の理解をもらっています。急変時の対応、重度化時の早期発見、看取り時の対応について説明し、同意書にサインしています。重度化すると再度関係者で話し合い、対応を決めています。看取りの経験と経験者がおり、研修も実施しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急対応に関しては、消防避難訓練時に消防署職員によるAEDの使い方等の訓練を実施。また各フロアに緊急時の対応方法を掲示している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	施設内に非常用の食料・飲料水を備蓄している。定期的に避難訓練を実施し、緊急時の避難誘導の把握・確保を行なっている。また夜間等の緊急時には近隣に協力要請の依頼を（学生寮等）している。	今年度は、新型コロナ対応等で避難訓練をまだ行っていませんが、消防署と相談し避難訓練を実施予定です。非常時には交流のある学生寮との協力を得るようにしています。備蓄品は3日以上の水やパン等の保存食、賞味期限管理表に記され、法人と現場で管理しています。	密を避けた防災訓練のほか、個別の避難誘導訓練等も組み合わせた新しい方法で開催することも期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	当施設の理念の基、「目くばり、気くばり、心くばり」にのっとり利用者の個々の人柄や人格に合わせて対応している。	理念である目配り、気くばり 心くばりで、人格を尊重して本人の安全と安心な暮らしをサポートしています。そのためには変化を捉え、気づくことを大切にし職員間で共有して支援しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活において、家事や、散歩、レクリエーション等への参加の際には、本人の意思や希望を尊重し参加を促す様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者のその日の状態や個々の生活リズムに合わせて日々の生活が規則正しく穏やかに過ごせる様、利用者の要望に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	2ヶ月に一度の訪問理美容をはじめ、更衣時の服装もご本人の意思や人柄を尊重し洋服を着て頂くよう支援している。。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者のADLに合わせてご本人が出来る範囲で、配膳や、盛り付け・食器洗い等の準備をお手伝いして頂いている。	配食業者から食事メニューと湯煎の材料が届き、職員は利用者の協力を得ながら調理しています。食事前にはメニューの説明をして、美味しさを引き立てています。食事形態はミキサーやきざみなどで、本人に合わせて食べやすくしています。行事食は利用者の希望を叶えるようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や大きさは利用者の状態や嚥下に合わせて準備させて頂いている。またその日の摂取量は介護記録に記入し、摂取量の少ない方には、エンシュアやゼリー等の補助食を別途準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、職員の声掛けにて歯磨きを促している。また週に一度の訪問歯科にて、その方に合わせた定期的なケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	利用者のADLに合わせて、その都度声掛けにてトイレ誘導を行っている。また利用者の状態の変化は職員間で共有し、その方の状況に合わせて支援を行っている。	トイレ誘導の支援が必要な利用者には、排泄パターンや身振りなどからタイミングよく声掛けし、トイレでの排泄を支援しています。下着は、布パンツ、リハビリパンツ、尿漏れパット、大小のタイプなど、組み合わせを話し合い使用しています。夜間は居室に定時に訪ね、睡眠を優先としています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	その方の排便状況に合わせて、水分摂取量や歩行運動にて改善を促している。また便困状態が継続した場合は、便秘薬の服薬や医師・看護師の指示に従い対応・対処を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回、利用者のその日の状態やご希望に合わせて入浴をして頂いている。また入浴の前には必ずバイタルチェックを実地して入浴可能かを確認している。	入浴は午前中、バイタルチェック後週2回ゆっくり入浴しています。職員体制を整え、会話を楽しむ時間としています。風呂場は狭く段差がありますが、手すりを積極的に取り付けて安全にしています。シャワー浴や清拭もしています。入浴を拒む利用者には翌日や時間をずらしたりしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	規則正しい生活を送って頂くため、日中はできる限り体操やレクリエーション等を行って頂き、夜間に安眠出来る様支援している。また、その時の利用者の状況に合わせてお昼寝や休息ができる様個々に促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	往診時に医師と相談の上、その方に合わせた薬を処方して頂いている。また服薬は職員2人にてダブルチェックを行い名前・日付・薬内容・内服者を確認。服薬後は空袋に残薬が無いかをチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々の生活にメリハリが持てる様に利用者のADLに合わせて、洗濯物干しや、配膳の準備等をして頂いている。また飲み物も可能な範囲でその方の希望に合わせた物をご用意している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	可能な限り、近隣の散歩やご希望によりご家族との外出等をして頂いている。（現在新型コロナウイルスのため、外出は中止）	新型コロナ禍で、外出外泊は自粛しています。廊下の往復や平行棒による歩き、1階の玄関エリアでの気分転換、さらに玄関横のベンチでの外気浴でくつろいでいます。外出の場合の安全管理は、外出外泊チェック表やバイタルチェック表で健康管理体制が出来ており、個別対応で実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的にご本人にはお金を所持して頂いていない。外出等の機会あれば、ご希望により支援させて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族よりご要望があれば、ご本人への電話の取次を行っている。またお手紙等はご本人が返事を書ける範囲内で、ご本人に書いて頂く様促している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各居室及びフロアーは常に清潔感を保てる様、適宜清掃を行っている。また屋内に居ても利用者に季節感を感じて頂ける様に、四季折々の行事の飾り付けや写真等を利用者に作って頂き掲示している。	共用空間はこじんまりしていますが、明るく、清掃が行き届いて落ち着いた雰囲気です。加湿器もあります。入口の廊下に写真や貼り絵、季節を感じる大型作品が展示されています。1階の玄関ホールには机といすの談話スペースが設置され、広い会議室兼職員詰め所もあります。玄関前にベンチを置き、外気浴の利用者を和ませています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	施設の敷地内に日向ぼっこのできるベンチを設置して利用者の気分転換等に役立っている。また、各居室へは、利用者の要望に合わせて自由に出入りして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内のお荷物及びレイアウトは入居時にご本人とご家族のご希望で決めて頂いている。ご本人には安心して生活して頂ける様、置物や小物類はご本人の趣味や要望に合わせて頂いている。	居室には机やいす、テレビ等なじみのものを持ち込み、自分好みの部屋としています。ドアには名前、塗り絵、写真等が飾られ鍵付きの部屋です。クローゼットには耐震補強金具が取り付けられ、室内電話が備えられています。居室担当職員が整理整頓して、生活支援をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	フロアー及び通路には手すりを設置しており利用者の安全な歩行が可能。またその方のADLに合わせて職員の介助や、杖・歩行器を使用して無理の無い生活を送って頂いている。		

事業所名	グループホーム花物語いちがお
ユニット名	3階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念は各事業所にて決めている。また玄関、事務所、各フロアーに掲示して、職員は理念の基、常に「気配り・目配り・心配りをモットーに、入居者を第一に考え「安心・安全・笑顔」を目指して支援している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	荏田西町内会に加入し、年間行事（もちつき大会やお祭り）等に参加。 ※今年に入り新型コロナウイルスの影響により中断。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	自治会を通し、近隣の住民の方々との交流、協力をしている。 ※今年に入り新型コロナウイルスの影響により中断。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1度実施しており。施設での利用者のご様子や事故報告、また参加者のご意見などを聞きサービス向上に努めている。 ※今年に入り新型コロナウイルスの影響により2月以降中断（別の形式を検討中）		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進委員会を通じて、主に地域包括の方々との連絡を密にとり、協力関係を築いている。 ※今年に入り新型コロナウイルスの影響により2月以降中断（別の形式を検討中）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の研修・確認を定例会時に行い、身体拘束の有無を改めて確認をし、理解、実行に取り組んでいる。また自己点検シートを活用をし虐待防止に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的な研修・確認を通し各自が虐待に繋がる事はないか、その都度確認をしている。また職員がいつでも閲覧できる様、休憩室に虐待防止マニュアルを設置している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	定期的な研修や介護支援専門員との意見交換等の場を設ける事で、利用者が後見人制度を必要とする時期等の勉強の場としている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に順を追って分かりやすく説明する。その都度説明内容に疑問や質問等の有無を確認し、納得が頂ける様、説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や面会時に、ご要望や個々の意見を聞き取り、その都度または、定例会等での話し合いにより、利用者のご家族にはご理解の頂ける様返答をしている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	現在定期的なミーティング等を実施していないが、必要に応じて意見交換の場（申し送り等）を設け適宜実施。ユニット毎に、職員の要望や意見交換を行い、業務に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	資格に繋がる研修は事前に申請する奨学金制度にて取得出来るようになっている。また職員の希望や働きやすい職場環境を整えるため、職員の意見聞き取り職場へ反映させている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	入社時は同時間帯の勤務者と直接職場研修をする事（OJT）で業務を身に就けている。また他施設での介護現場（ヘルプ対応等）を研修に取り入れ、職員のスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	定期または不定期に全体・エリア会議を設け、本社通達をはじめ施設間の様々な情報を共有することで、意見交換の場としている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前にご家族及びご本人から既往歴や身体状況のアセスメントを取り、それに合わせてケアプランを作成する。情報やプランは職員間で共有、利用者が安心して生活出来る様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族には施設での生活に関する情報をお伝えし、どんな不安や要望があるのかをお聞きし、入居前にご本人やご家族にとって、何が一番必要なのかを、理解して頂き関係を築いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人やご家族が何を望んでいるのかを見極めて、要望に合わせた支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は利用者の事を最優先に考え、その方にどう介護・支援の事が最善かを考慮しながら、その人らしく持っている能力を活かせる様、支援する。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の日々の変化を家族に説明しながら情報を共有し、利用者・ご家族の要望を踏まえて支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	施設は常時面会をオープンにし、ご家族との外出・外泊等も積極的に行って頂いている。 ※現味新型コロナウイルスの影響で、面会制限あり。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	体操やレクリエーション等を通じ、利用者間には隔たりなく接して頂き、できる限り孤立しない様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用者の状況が変化し、サービスが終了した場合でも、ご家族から相談や問い合わせがあった場合はその都度、対応をしている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の個々の思いや希望を把握し、出来る限りご要望にお応えしている。解決が困難な場合はキーパーソンやご家族に相談して解決に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の個人記録や個人経歴等を職員間で共有し、入居後のサービス向上に反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	施設での利用者の生活及び身体情報は職員間で常に共有し。必要であれば、カンファレンスや申し送りノートを活用し、漏れの無い様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者の日々の状態を提携医療機関の主治医、看護師、ケアマネージャー、介護職員等の様々な意見を反映しケアプラン作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録は業務日誌や申し送りノートに記録して職員間で情報を共有。利用者の状況や状態の変化に合わせてその都度介護計画を見直し、ケアプランに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	可能な限り利用者個々のニーズにあわせた対応と、緊急時の受診対応等には必要に応じて支援、サービスを行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の行事には、積極的に参加して頂き、交流を深める事でその人らしい生活・暮らしができる様に支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回、提携医療機関の往診を実施している。また利用者の体調不良時にもその都度、オンラインによる医師・看護師の指示をうけ、連携、対応をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員は週2回勤務し、利用者の健康管理及び状態を把握し、主治医と連携して適切な処置・対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には、病院及びご家族との連携を密に行い、症状・情報の把握に努める。またその情報を基に今後の介護・ケアに生かせる様、病院関係者との情報交換も行っている。 (情報提供書等)		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に関しては、契約時にご家族に説明し同意書にサインを頂く。また利用者が重篤になりそうな場合は早い段階で主治医に相談し専門医の治療をご家族に促し治療先の病院と連携を取りながら今後の治療等に対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急対応に関しては、消防避難訓練時に消防署職員によるAEDの使い方等の訓練を実施。また各フロアに緊急時の対応方法を掲示している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	施設内に非常用の食料・飲料水を備蓄している。定期的に避難訓練を実施し、緊急時の避難誘導の把握・確保を行なっている。また夜間等の緊急時には近隣に協力要請の依頼を（学生寮等）している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	当施設の理念の基、「目くばり、気くばり、心くばり」にのっとり利用者の個々の人柄や人格に合わせて対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活において、家事や、散歩、レクリエーション等への参加の際には、本人の意思や希望を尊重し参加を促す様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者のその日の状態や個々の生活リズムに合わせて日々の生活が規則正しく穏やかに過ごせる様、利用者の要望に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	2ヶ月に一度の訪問理美容をはじめ、更衣時の服装もご本人の意思や人柄を尊重し洋服を着て頂くよう支援している。。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者のADLに合わせてご本人が出来る範囲で、配膳や、盛り付け・食器洗い等の準備をお手伝いして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や大きさは利用者の状態や嚥下に合わせて準備させて頂いている。またその日の摂取量は介護記録に記入し、摂取量の少ない方には、エンシュアやゼリー等の補助食を別途準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、職員の声掛けにて歯磨きを促している。また週に一度の訪問歯科にて、その方に合わせた定期的なケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	利用者のADLに合わせて、その都度声掛けにてトイレ誘導を行っている。また利用者の状態の変化は職員間で共有し、その方の状況に合わせて支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	その方の排便状況に合わせて、水分摂取量や歩行運動にて改善を促している。また便困状態が継続した場合は、便秘薬の服薬や医師・看護師の指示に従い対応・対処を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回、利用者のその日の状態やご希望に合わせて入浴をさせて頂いている。また入浴の前には必ずバイタルチェックを実地して入浴可能かを確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	規則正しい生活を送って頂くため、日中はできる限り体操やレクリエーション等を行って頂き、夜間に安眠出来る様支援している。また、その時の利用者の状況に合わせてお昼寝や休息ができる様個々に促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	往診時に医師と相談の上、その方に合わせた薬を処方して頂いている。また服薬は職員2人にてダブルチェックを行い名前・日付・薬内容・内服者を確認。服薬後は空袋に残薬が無いかをチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々の生活にメリハリが持てる様に利用者のADLに合わせて、洗濯物干しや、配膳の準備等をして頂いている。また飲み物も可能な範囲でその方の希望に合わせた物をご用意している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	可能な限り、近隣の散歩やご希望によりご家族との外出等をして頂いている。（現在新型コロナウイルスのため、外出は中止）		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的にご本人にはお金を所持して頂いていない。外出等の機会あれば、ご希望により支援させて頂いている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族よりご要望があれば、ご本人への電話の取次を行っている。またお手紙等はご本人が返事を書ける範囲内で、ご本人に書いて頂く様促している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各居室及びフローア-は常に清潔感を保てる様、適宜清掃を行っている。また屋内に居ても利用者に季節感を感じて頂ける様に、四季折々の行事の飾り付けや写真等を利用者に作って頂き掲示している。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	施設の敷地内に日向ぼっこのできるベンチを設置して利用者の気分転換等に役立てている。また、各居室へは、利用者の要望に合わせて自由に出入りして頂いている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内のお荷物及びレイアウトは入居時にご本人とご家族のご希望で決めて頂いている。ご本人には安心して生活して頂ける様、置物や小物類はご本人の趣味や要望に合わせて頂いている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	フローア-及び通路には手すりを設置しており利用者の安全な歩行が可能。またその方のADLに合わせて職員の介助や、杖・歩行器を使用して無理の無い生活を送って頂いている。			

事業所名	グループホーム花物語いちがお
ユニット名	4階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念は各事業所にて決めている。また玄関、事務所、各フロアーに掲示して、職員は理念の基、常に「気配り・目配り・心配りをモットーに、入居者を第一に考え「安心・安全・笑顔」を目指して支援している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	荏田西町内会に加入し、年間行事（もちつき大会やお祭り）等に参加。 ※今年に入り新型コロナウイルスの影響により中断。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	自治会を通し、近隣の住民の方々との交流、協力をしている。 ※今年に入り新型コロナウイルスの影響により中断。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1度実施しており。施設での利用者のご様子や事故報告、また参加者のご意見などを聞きサービス向上に努めている。 ※今年に入り新型コロナウイルスの影響により2月以降中断（別の形式を検討中）		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進委員会を通じて、主に地域包括の方々との連絡を密にとり、協力関係を築いている。 ※今年に入り新型コロナウイルスの影響により2月以降中断（別の形式を検討中）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の研修・確認を定例会時に行い、身体拘束の有無を改めて確認をし、理解、実行に取り組んでいる。また自己点検シートを活用をし虐待防止に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的な研修・確認を通し各自が虐待に繋がる事はないか、その都度確認をしている。また職員がいつでも閲覧できる様、休憩室に虐待防止マニュアルを設置している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	定期的な研修や介護支援専門員との意見交換等の場を設ける事で、利用者が後見人制度を必要とする時期等の勉強の場としている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に順を追って分かりやすく説明する。その都度説明内容に疑問や質問等の有無を確認し、納得が頂ける様、説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や面会時に、ご要望や個々の意見を聞き取り、その都度または、定例会等での話し合いにより、利用者のご家族にはご理解の頂ける様返答をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	現在定期的なミーティング等を実施していないが、必要に応じて意見交換の場（申し送り等）を設け適宜実施。ユニット毎に、職員の要望や意見交換を行い、業務に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	資格に繋がる研修は事前に申請する奨学金制度にて取得出来るようになっている。また職員の希望や働きやすい職場環境を整えるため、職員の意見聞き取り職場へ反映させている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	入社時は同時間帯の勤務者と直接職場研修をする事（OJT）で業務を身に就けている。また他施設での介護現場（ヘルプ対応等）を研修に取り入れ、職員のスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	定期または不定期に全体・エリア会議を設け、本社通達をはじめ施設間の様々な情報を共有することで、意見交換の場としている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前にご家族及びご本人から既往歴や身体状況のアセスメントを取り、それに合わせてケアプランを作成する。情報やプランは職員間で共有、利用者が安心して生活出来る様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族には施設での生活に関する情報をお伝えし、どんな不安や要望があるのかをお聞きし、入居前にご本人やご家族にとって、何が一番必要なのかを、理解して頂き関係を築いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人やご家族が何を望んでいるのかを見極めて、要望に合わせた支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は利用者の事を最優先に考え、その方にどう介護・支援する事が最善かを考慮しながら、その人らしく持っている能力を活かせる様、支援する。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の日々の変化を家族に説明しながら情報を共有し、利用者・ご家族の要望を踏まえて支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	施設は常時面会をオープンにし、ご家族との外出・外泊等も積極的に行っている。 ※現味新型コロナウイルスの影響で、面会制限あり。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	体操やレクリエーション等を通じ、利用者間には隔たりなく接して頂き、できる限り孤立しない様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用者の状況が変化し、サービスが終了した場合でも、ご家族から相談や問い合わせがあった場合はその都度、対応をしている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の個々の思いや希望を把握し、出来る限りご要望にお応えしている。解決が困難な場合はキーパーソンやご家族に相談して解決に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の個人記録や個人経歴等を職員間で共有し、入居後のサービス向上に反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	施設での利用者の生活及び身体情報は職員間で常に共有し。必要であれば、カンファレンスや申し送りノートを活用し、漏れの無い様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者の日々の状態を提携医療機関の主治医、看護師、ケアマネージャー、介護職員等の様々な意見を反映しケアプラン作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録は業務日誌や申し送りノートに記録して職員間で情報を共有。利用者の状況や状態の変化に合わせてその都度介護計画を見直し、ケアプランに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	可能な限り利用者個々のニーズにあわせた対応と、緊急時の受診対応等には必要に応じて支援、サービスを行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の行事には、積極的に参加して頂き、交流を深める事でその人らしい生活・暮らしができる様に支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回、提携医療機関の往診を実施している。また利用者の体調不良時にもその都度、オンラインによる医師・看護師の指示をうけ、連携、対応をしている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員は週2回勤務し、利用者の健康管理及び状態を把握し、主治医と連携して適切な処置・対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には、病院及びご家族との連携を密に行い、症状・情報の把握に努める。またその情報を基に今後の介護・ケアに生かせる様、病院関係者との情報交換も行っている。 (情報提供書等)		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に関しては、契約時にご家族に説明し同意書にサインを頂く。また利用者が重篤になりそうな場合は早い段階で主治医に相談し専門医の治療をご家族に促し治療先の病院と連携を取りながら今後の治療等に対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急対応に関しては、消防避難訓練時に消防署職員によるAEDの使い方等の訓練を実施。また各フロアに緊急時の対応方法を掲示している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	施設内に非常用の食料・飲料水を備蓄している。定期的に避難訓練を実施し、緊急時の避難誘導の把握・確保を行なっている。また夜間等の緊急時には近隣に協力要請の依頼を（学生寮等）している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	当施設の理念の基、「目くばり、気くばり、心くばり」にのっとり利用者の個々の人柄や人格に合わせて対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活において、家事や、散歩、レクリエーション等への参加の際には、本人の意思や希望を尊重し参加を促す様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者のその日の状態や個々の生活リズムに合わせて日々の生活が規則正しく穏やかに過ごせる様、利用者の要望に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	2ヶ月に一度の訪問理美容をはじめ、更衣時の服装もご本人の意思や人柄を尊重し洋服を着て頂くよう支援している。。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者のADLに合わせてご本人が出来る範囲で、配膳や、盛り付け・食器洗い等の準備をお手伝いして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や大きさは利用者の状態や嚥下に合わせて準備させて頂いている。またその日の摂取量は介護記録に記入し、摂取量の少ない方には、エンシュアやゼリー等の補助食を別途準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、職員の声掛けにて歯磨きを促している。また週に一度の訪問歯科にて、その方に合わせた定期的なケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	利用者のADLに合わせて、その都度声掛けにてトイレ誘導を行っている。また利用者の状態の変化は職員間で共有し、その方の状況に合わせて支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	その方の排便状況に合わせて、水分摂取量や歩行運動にて改善を促している。また便困状態が継続した場合は、便秘薬の服薬や医師・看護師の指示に従い対応・対処を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回、利用者のその日の状態やご希望に合わせて入浴をさせて頂いている。また入浴の前には必ずバイタルチェックを実地して入浴可能かを確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	規則正しい生活を送って頂くため、日中はできる限り体操やレクリエーション等を行って頂き、夜間に安眠出来る様支援している。また、その時の利用者の状況に合わせてお昼寝や休息ができる様個々に促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	往診時に医師と相談の上、その方に合わせた薬を処方して頂いている。また服薬は職員2人にてダブルチェックを行い名前・日付・薬内容・内服者を確認。服薬後は空袋に残薬が無いかをチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々の生活にメリハリが持てる様に利用者のADLに合わせて、洗濯物干しや、配膳の準備等をして頂いている。また飲み物も可能な範囲でその方の希望に合わせた物をご用意している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	可能な限り、近隣の散歩やご希望によりご家族との外出等をして頂いている。（現在新型コロナウイルスのため、外出は中止）		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的にご本人にはお金を所持して頂いていない。外出等の機会あれば、ご希望により支援させて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族よりご要望があれば、ご本人への電話の取次を行っている。またお手紙等はご本人が返事を書ける範囲内で、ご本人に書いて頂く様促している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各居室及びフローア-は常に清潔感を保てる様、適宜清掃を行っている。また屋内に居ても利用者に季節感を感じて頂ける様に、四季折々の行事の飾り付けや写真等を利用者に作って頂き掲示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	施設の敷地内に日向ぼっこのできるベンチを設置して利用者の気分転換等に役立てている。また、各居室へは、利用者の要望に合わせて自由に出入りして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内のお荷物及びレイアウトは入居時にご本人とご家族のご希望で決めて頂いている。ご本人には安心して生活して頂ける様、置物や小物類はご本人の趣味や要望に合わせて頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	フローア-及び通路には手すりを設置しており利用者の安全な歩行が可能。またその方のADLに合わせて職員の介助や、杖・歩行器を使用して無理の無い生活を送って頂いている。		

2020年度

## 目標達成計画

事業所名 グループホーム花物語いちがお

作成日：令和 3 年 4 月 9 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		現在職員の意見・提案等は日々のカンファレンスなどを通して実施しているが、コロナ過以降、定期的な打ち合わせやミーティングを実施できていない。	月に一回程度のミーティングを、ユニット（3ユニット）毎の少人数で実施する。	手始めに、その日の決め事や利用者の情報等を職員間で周知するためユニット毎の朝のショートミーティング（10分程度）を実施する。	6 ヶ月
2		コロナ過以降、従来と同じ様な定期的な防災訓練が実施できてい。	密を避けた形での防災訓練（施設全体ではなくフロア毎）を考えて、実施する。	3フロア毎に別の日程で実施し、密を避けると共に職員間で利用者毎の避難方法や避難経路を確認する。	6 ヶ月
3		職員の定期的な社内研修。	テキスト購読研修等、研修方法や内容を工夫して、職員が密にならなくても可能な研修を実施する。	社内研修ファイルを作成し、毎月決められた研修テーマに沿って各自精読にて研修をおこなう。	6 ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月